



学校運営方針		学校運営計画（4月）		評価（3月）	
<p>志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成をめざし、「さらなる飛躍をめざす糸高」のもと、生徒一人ひとりの「確かな学力」と「豊かな心」「健やかな身体」の三位一体的な形成を基盤とし、生きる力を醸成し、自己実現をめざす。</p>					
<p>昨年度の成果と課題</p>		<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>		
<p>全職員の組織的で相互補完的な指導体制により、生徒の生活態度・学習態度は大変良好な状態を維持している。今年度も、生徒の学力向上と全人的な成長を期して、教師の授業力向上と生徒一人ひとりに寄り添う指導の充実を図りたい。</p> <p>福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」による研究開発も最終年度を迎え、九州大学との連携、最新の手法や機器の習得等による、研修の成果が問われる年度である。さらなる飛躍の一助とすべく、これらの成果を学習指導、進路指導に取り入れ、さらに具体的に実践したい。</p> <p>また、平成31年春のJR新駅開業を、本校の新たな時代を画す契機とし、本校の魅力を第6学区の全中学校生・保護者に知らせるべく、広報活動のよりいっそうの充実を図る。</p>		<p>自主積極の精神に則り、礼節、規律、自尊心、思いやりの心を尊び、豊かな人間性を育むとともに、糸高生としての誇りを持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の率先垂範による、時間厳守、挨拶、清掃、円滑なコミュニケーション等の活動を通して、生徒の自主性、積極性を養う。</li> <li>いじめに関する研修を重ね、認知度を高め、組織的、恒常的に取り組むとともに、アンケートや生徒観察などにより生徒理解を深め、安全安心な環境整備と強い信頼関係を築く。</li> <li>「新品のように」を合言葉に、美化運動の充実を図る。</li> <li>積極的に地域と連携し、信頼関係を深化させるとともに、より地域に開かれた学校づくりに努める。</li> </ul>		
		<p>「確かな学力」を育む授業等を展開し、学力の向上をめざす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力の三要素「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学習意欲」を踏まえた授業設計のもと、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点からの授業改善を推進する。</li> <li>生徒による授業評価や関係者等による指導助言などの評価活動や、様々な研修を通して研鑽を積み、授業力の向上を図る。</li> <li>生徒の家庭生活の実態把握や教科・科目の学習ガイダンス等を充実させ、生活習慣や学習習慣の指導改善を図る。</li> <li>大学入試改革や高大接続に関する研修を行い、時代と社会に求められる、本校が育成すべき人物像を明確に共有し、その実現のための学習指導、進路指導の充実を促進する。</li> </ul>		
		<p>学校行事の活性化や部活動の充実・強化による学校生活の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の活力源としての学校行事、生徒会活動や部活動指導を通じて、自主性と積極性を養う。</li> <li>学校の状況を、ホームページをはじめとする種々の手段を通して、迅速かつ広範に発信し、広報に努める。</li> </ul>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	
生徒育成部	教務課	「確かな学力」を育む基盤として、高い出席率の維持と授業規律の徹底を図る。	学校全体の出席率99%を目標とし、生活習慣の確立を学習習慣の確立へとつなげ、学力向上を図る。 一斉・チャイム・号令の徹底から、授業規律を確立し、緊張感のある授業姿勢をつくる。		
		学力向上を目指した能動的な学習姿勢の基礎を育てる。	思考力、判断力、表現力を観点別評価に取り入れることで、「主体的で対話的な深い学び」を促す。 研究開発課と連携し、電子黒板やICTの活用により、「主体的で対話的な深い学び」を展開する。		
	広報情報課	各中学校・学習塾への積極的な広報活動を行い、本校の教育活動に対する理解を深めていただく。	組織的・協働的な広報活動を戦略的にを行い、情報共有の徹底を図る。 学校説明会・体験入学を年間3回実施する。また、学習塾・保護者対象の説明会を実施する。		
		HIPを充実させ、リアルタイムな情報を随時発信し、本校の魅力をアピールする。	「各分掌・学年・部活動顧問」の担当者が計画的にHIPの内容を更新することで、タイムリーに情報を提供する。 インターネットを活用し、A/L型授業(反転学習法)を充実させることで、次世代教育への授業力改善に繋げる。		
	生徒指導課	校訓を具現化する生徒の育成及び集団の形成を図り、充実した高校生活の確立を目指す。	校内規則の遵守により規範意識の醸成を図り、糸高生としての自覚を高めさせる。（登下校時間、ケータイ・スマホの「糸高ルール」の遵守等） 学校行事、部活動（加入率85%以上）、生徒会活動等を更に充実させ、生徒が自ら考え、行動する場面をつくり、「生きる力」の醸成を図る。		
		生徒が安心して学校生活が送れるような環境づくりを進める。	個人面談（1・2学期始め）、生活アンケート（年3回）、いじめに関するアンケート（毎月）等により、安心な学校づくりをすすめる。 積極的な生徒観察などにより生徒理解を深め、いじめの認知度を高める。また、研修会等で職員間で共通認識の向上を図ることによって、いじめ撲滅に取り組む。		
進路推進部	進路指導課	課題に積極的にチャレンジし続ける力をつけさせ「活気ある社会に貢献する」有為な人材を育てる。	高大接続改革の視点に立ち、思考力・判断力・表現力を身につけさせ、新テストに対応できる力を育成する。 3年間を通したキャリア教育の計画・実施を行う。1年次「知識」2年次「経験」3年次「表現」を目標とする。		
		広い視野を持って自らを向上させようとする意識を持たせ、より高い進路目標に向かって努力できる環境を整える。	模試成績を生徒に具体的なデータで示し、自らの可能性を認識させ、より高い目標が持てるように指導する。また、各種資格の取得率向上を図る。 一般入試に対応できる力の養成に努め、国公立大学50名以上、西南学院大学100名以上、福岡大学150名以上の合格を目標とする。		
	研修図書課	教員一人ひとりの資質向上及び学校改善、改革につながる研修機会を充実させる。	本校の課題認識及び解決のための校内研修会を年5回以上計画し、実施する。 校外研修会への積極的参加を促し、基本研修の内容についても共有を図る。		
		図書館・視聴覚室の各施設が、生徒にとって親しみやすく、快適に利用できるよう努める。	年2回、7月と12月に選書会議を実施するなど、生徒及び各教科に必要な図書の購入に努める。 生徒の興味を引く図書展示の工夫と情報誌『らいぶらりい』を発行し、図書館利用のPRと読書への関心を高める。		
	保健課	生徒が心身共に健康な生活を送れるよう、職員間の共通理解を図り、指導とサポートに役立てる。	月毎の保健だよりを発行し、熱中症（夏季）・感染症（冬季）等情報をタイムリーに提供し、予防に努める。 保健室利用状況を学年・男女別に集計し、月毎の統計を出すことで、生徒の健康管理に生かす。		
		清掃活動の徹底を行い、「きれいな糸高」を全職員・生徒で実現する。	美化コンクールの実施：年間1回（2学期）、ワックスがけの実施：年間3回（5月、10月、3学期） 各行事前後の大掃除・定期考査前の教室点検の実施の他、各学校行事にあわせて環境整備（学校視察・PTA総会等）を行う。		
庶務課	式典（入学式、卒業式、始業式、終業式、創立記念式）及び学校行事を円滑に行う。	各式典、学校行事の総務及び関係分掌との連絡・調整を十分に行うことで、行事の内容を高める。 業務の標準化および情報化を行い、全職員が一体となって組織的・協働的な運営を行う。 行事用テントの規格を統一し、補修・補充を効率よく行えるようにする。 椅子・机の管理の手順を標準化および情報化し、利用や補充を効率よく行えるようにする。			

企画支援部	糸学課	「糸学」の円滑な実施のため、教員間での主旨の共有に努める。	研修や資料の提示を通して、「糸学」の主旨について全職員で共有する。					
		広く外部に機会を求め、糸学を「活きた学び」とできるように努める。	「糸学」の内容について、職員間での情報共有を図ることで内容深化に努める。					
		教育活動を整理・評価し、改善、改革とともに、優れた活動を継承・発展させるためのしくみをつくる	教員や生徒が郷土について関心を高め、愛着と誇りを持つことができるよう、積極的な情報提供を行う。					
	研究開発課	将来の社会で活躍する人材を育成する観点から、次世代の新しい教育手法を導入する	大学や地域と広く連携・協力し、多様な人材による出前講義を企画する。					
		ルール・マナー・モラルを守る自尊心・思いやりの心豊かな人材を育成する。	授業改善、授業力向上の取組みであるITOKプロジェクトの推進を通して恒常的な研究・開発の組織づくりを進める。					
		生涯学習を目指した自学自習の方法を体験させ、学習能力を向上させる。	福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の成果を活用し、その取組をITOKプロジェクトに継承する。					
	第1学年	他者を理解し思いやる心、何事にも挑戦するたくましい心を育て、出席率99%以上を目指す。	すべての授業において、ICTの活用を含めた21世紀型授業を導入する。					
		社会の多様性と変化を理解し、その中で自分を活かし、成長できる力を育成する。	九州大学M2B学習支援システムを導入し、授業外学習の充実を図るなど生徒自身による学習改善を進める。					
		自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	時間・挨拶・言葉遣い・話を聞く姿勢など社会人としての資質・能力を高めさせる。					
	第2学年	他人の価値観を認め、かつ自らの考えを持って行動し、自ら進んで物事に取り組ませる。	集団への帰属意識を高めるため、部活動加入の奨励や、クラス役員活動等を通じ、自己肯定感を高めさせる。					
		自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	授業や自学課題の内容を精選し、常に考えながら学習する習慣を身につけさせる。					
		自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	自学自習の基礎となる読解力・表現力を高めるために、朝読書や小論文指導を計画的かつ段階的に進めていく。					
第3学年	他人の価値観を認め、かつ自らの考えを持って行動し、自ら進んで物事に取り組ませる。	保護者との連携を密に取り、生徒に寄り添うことで互いの信頼関係を築き、生徒の積極性を高める。						
	自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	他者理解や共感性・感受性を高めることで周囲への感謝の心や自己肯定感を育む。						
	自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	小論文指導等を通じ、社会に関する関心を高め、自己と社会の生活との関わりを大切にさせる。 GTECや各種検定への積極的な取組で自己実現への力を養成する。また、GTEC500点以上40名以上、400点以上200名以上を目指す。						
第3学年	他人の価値観を認め、かつ自らの考えを持って行動し、自ら進んで物事に取り組ませる。	出席率99%を目標とする。生徒会役員や部活動のリーダーを中心に全生徒が一体となる中で生徒の自立を支援する。						
	自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	学校行事や部活動での達成感を味わわせることで、生徒の自己肯定感の高揚を図り、進路実現へとつなげていく。						
	自習室の活用を推進し、自ら学び考える人材を育成し、志望校合格へと導く。	成績層ごとに各教科で指導方針を立て、学年団や各教科担当による細やかな分析を行う。 年5回以上の面談実施により、生徒の志望校合格へ導く。(合格目標：国公立大学50名以上、西南学院大学100名以上、福岡大学150名以上)						